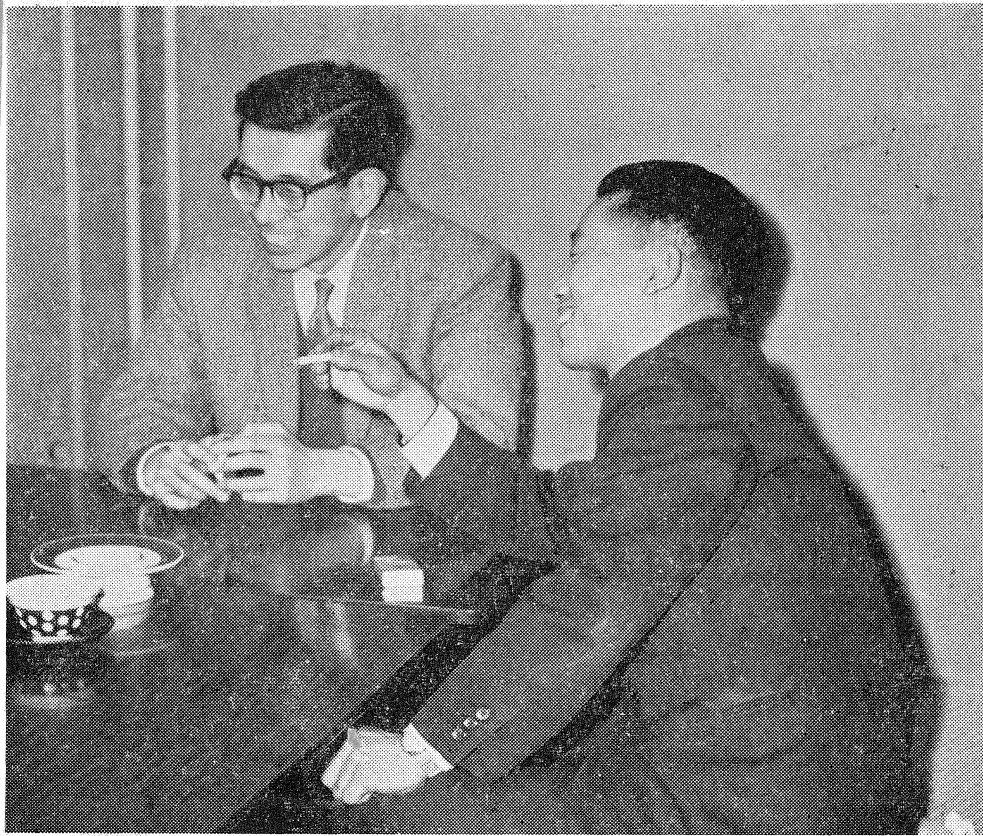


座談会 サイクリングの楽しみ方



とき
ところ
ひとたち

二月十三日

末広町久保田

萩原 慎一

鳥山 新一

山本 秀男

司会 今井 彬彦

うし、鳥山さんは理屈の上でね……。鳥山 理屈の上でねとは……（笑）。今井 その理屈の上で（笑）……楽しみはこうなんだとわりきっているような気がするんです（笑）。

私はこうして楽しんでいる

で、はじめに萩原さんにお聞きしたいのですが、何かこのことで考えていることがあるかということなのです。私はこういうことをやっているのだと、他の人は知らないが私はこういう楽しみ方をしているんだということ聞かせてほしいんですが……

萩原 結論が出ちやうじやないか（笑）

鳥山 そうだな、結論をだしてそれに至る過程を考えようというわけだな。

萩原 （首をかしげながら）という順序で説明すればいいかな。

今井 何か萩原さんの中に、おれはこうやって楽しんでいるんだということがあるに違いないのです。一般の今始めた人達と違つてとにかく二十何年やっているわけですから、又方々へ出かけられた話を聞いても、そこに何かひとつの線があるような感じがするのです。それが意識されているかどうかということは問題なのですがね。こういう機会に恐らくそれらを整理して話してもらえないかと思うんです。

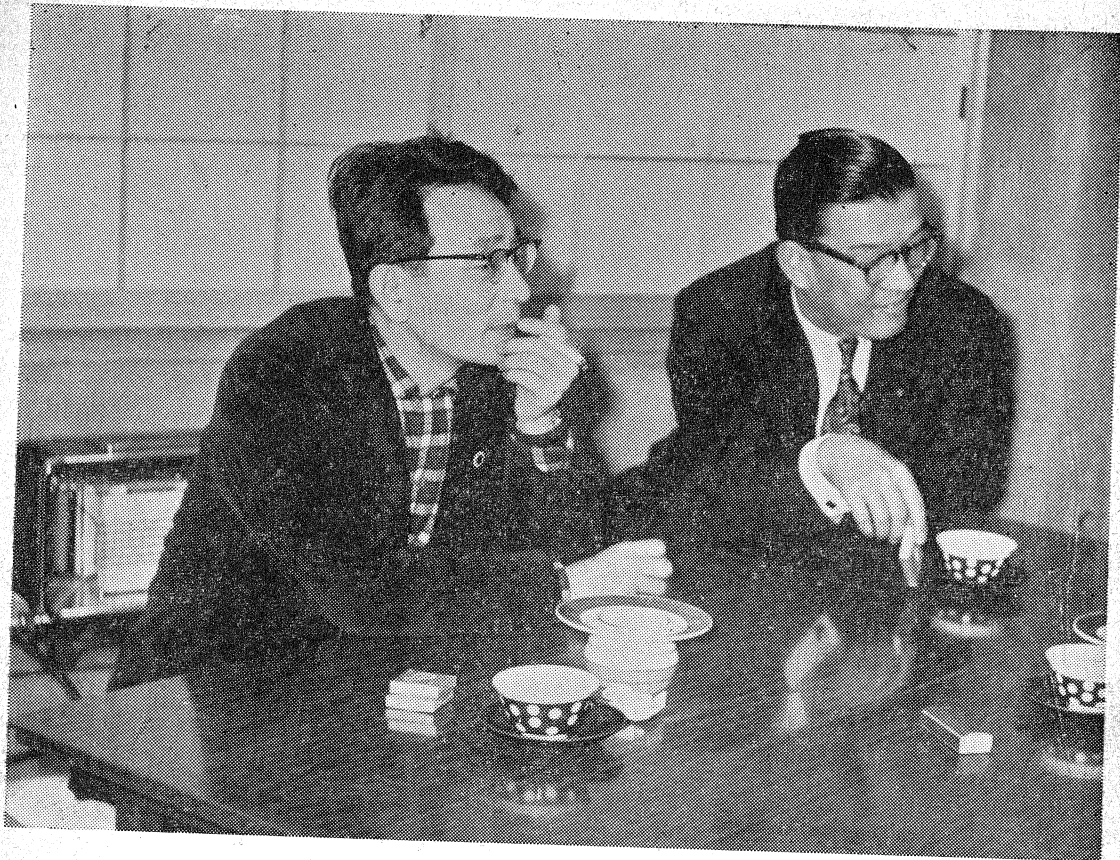
たいと思います。

萩原さん、鳥山さんを見ていて、萩原さんは少なくとも私が見るところでは一応楽しみ方を自分で考えてやっているように思

萩原 そうですね、つきつめて考えていくと僕等の楽しみ方は旅ですね。旅をする気持というか、旅の雰囲気を楽しむことに

転車で行けるコースを探し求めているのです。

今井 その点でま確ハニビ……



萩原さん、鳥山さんを見ていて、萩原さんは少なくとも私が見るところでは一応楽しみ方を自分で考えてやっているように思

萩原 そうですね、つきつめて考えていくと僕等の楽しみ方は旅ですね。旅をする気持というか、旅の雰囲気を楽しむことに落つくのではないでしょうか。その旅の手段は色々ありますよ、又どんな手段にしろその中に旅というものが色々の形でにじんでいるのではないのでしょうか。サイクリングという面から云えば、自転車というのは僕にとつては旅するための一つの手段であると云えないことはないと思うのです。結局、旅をしたいというのが一番の願

今井 旅というところ、これは大体、知らないところを見るといい好奇心と興味ということなのでしょうね。

萩原 そりや、そうですね。やはり見知らぬところに行きたいという好奇心を満足させるために出かけるということですね。

今井 それで自転車を「歩く」ということと換えることはしないのでしょうか？

萩原 目的によつては歩く方が有利な場合には歩きますけれど、自分がサイクリングをやっている以上、サイクリングに有利な場所を先に探すわけですよ。

今井 ああ、そうか……

萩原 だからサイクリングで行くことになるんですよ。もし歩く方を主体にやつていけば、自転車で行くより歩の方のコースを先に探しちゃうわけですよ。ですから自

転車で行けるコースを探し求めているのです。

今井 その点では確かに萩原さんは一貫しているんですね、例えば、とにかく背負つても行つて山の向う側で走ろうということはそれからきているわけですね。

萩原 そうですね、それに僕の今までの旅の履歴というものが山から出発しているんですね。自転車で乗る前には山をやつていたから、山に対する郷愁があるのですよ。だからいかにして自転車と山とを結びつけるか、山というものを含めたサイクリングをどうやったらできるかということを考えてコースを探しているのです。山と自転車なら、山はどうしても担ぎ上げなければならぬし、その向うで走つて楽しいということを含めたコースということになるのですよ。

今井 ところで、鳥山さんはどうですか、あなたも「楽しみ」をやつておられると思

鳥山 僕の考え方は、萩原さんが自転車以前に山をやつていたのに比べて、僕の場合は最初のとつつきから自転車をやつたわけなんです。そこでツーリングをやる前にはとにかく乗つて走りまわることなんです。ツーリングをやるようになってからも自転車でなければ味わえない楽しみ、他の乗物で行つたのでは味わえない良さ、別の言葉で云えばサイクリングだけの楽しさを根底においた「楽しみ方」なんです。とにかく自転車で走つてこそ面白味がある

ということが主体ですね。

今井 具体的に、自転車でなければという現実の面白味はどういう場合なのかな。
鳥山 それは分り易い例をとってみると



何もバスで行けるところをわざ／＼自転車で行かなくてもいいわけなんです。しかし自転車で行くということは自分の肌に空気が触れるという、要するに都会から逃げだして自然の懷に帰るわけなんです。話が一寸それるかもしれないけれど、サイクリングが都会地ばかりを中心に行っているのは経済的な理由ばかりではないと思うんです。地方とか山の人はいつもその自然の中でいい空気に触れているわけなのです。この間の山本君の「小岩井農場」ではないが、ああいうところに住んでいれば少しも事あらたにそうは感じないわけなんです。この頃の自動車ドライブにしろ、二時間あれば箱根の山の上へ行つてしまふ、そこでメシを喰つたりしても、それでは一向に自然に帰るという気がしないんだ。

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということを教えてくれたのもツーリングクラブだし、それから長年、

どれだけの努力をしたから、どれだけの距離を走つたとか、高さにあがつたということとでなく、本当の空気にじかに触れるということが肝心ですよ。「旅」と云えば普段知らないところへ出かけるという、要するに普段の自分をとりまいてる環境から逃げだすことだな、まあ逃げだすことは悪いことかも知れないが、実は知識にしろ、景色にしろ自分の触れていないものに触れてみるということですね。汚れた都会の空気が逃げだすことだと思うのです。ただ人によつては考え方は違いますよ。場合によつては満員の汽車でもバスでもすしづめで窓をしめきつたまふ行つて、宿屋でドンチャカやつて楽しい人もいるだろうし、色々ですよ。やつぱり「旅」に出たいというのは、毎日のつとめからぬけ出して自然にあがれるということ、その空気に触れるということですね。

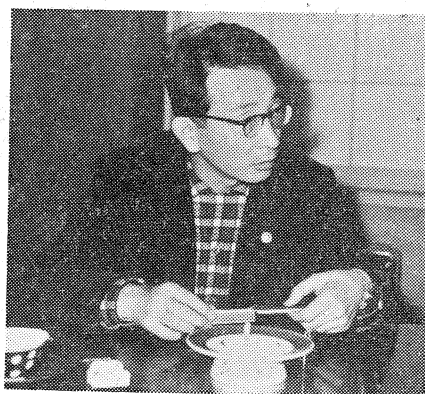
それが、オートバイだつたら一緒に行けばほこりを浴びるばかりで話すらもできない、自動車では話ができるが空気にじかに触れられないわけですよ。もつとも手近かな例として、自動車で行く場合にはどうしても手の汚れが気になるのです、つまりほこりつぽくて汗くさくなる。ところがサイクリングの場合はそういうことが全然気にならないのですよ。実質的にはもつとよこれているのがね。それより先にいい空気が自分の頬をなでてくれるという喜びの方が大きいのですよ。つまりオートバイにしろ、自動車にしろ、自転車にしろ各々全

う人間の気持が多分に働いていると思うんです。

山本 それでね、年から云つても丸タイヤで素つとばす年でも、

く違つたカテゴリーを持つていゝるんですね。だから自転車であればということをも根底において、ツーリングならそれで汗をながして苦労してでかける、スピードでなら丸タイヤでバン／＼とばしてやると、まあ何もそんなに無理してとばさなくても云うが、これには時期があると思うんだ。高校時分だと精一杯自分のエネルギーを発散させたいという気持があるんだね、僕もよくばしたもんだが、何もツーリングとロードレースが両立するかしらないかということとでなくて、人間の本性というか、何というかな？、きつと何かそこにあると思うんです。自分の力であるとか力一杯走つてみるとかという喜びといったもので、つきつめていくと、人間の原始的な姿に帰るんではないかと思うんですがね。

今井 山本君の場合はやつぱり「旅」と



いうことになるのかな？

山本 僕はね、あのテーマがでた時から

萩原 それが結論だな(笑)。

今井 いやいや、そうじゃない、これから本題に入るわけですよ(笑)、今まで

色々考えたのだが、やはりサイクリングの



一番の楽しさは「ペダルを踏むこと」だと思ふのです、具体的に云うと夜でも何でもいいんです、あの最初のスタートの気持の良さは乗つたことのない人には分りませんね。スーッと出ていくあれを味わいたくて夜でも引き出して乗るといふ、乗つてから先どうするかということの問題になるのですがね、それだけでは、今で云う「サイクリング」という言葉は通用しないと思ひます、これはまあ、広い意味での「サイクリング」ということですよ。とにかく「ペダルを踏むこと」の面白さを教えてくれたのはサイクルツーリングだと思います。これは間違いない事実ですよ。

今井 「教えてくれた」といふのはどういう意味なのかな？

山本 ツーリングがあつたからペダルを踏むことを覚えたということですね。

鳥山 レースをやつて「ペダルを踏むこと」を学んだのではないということだな。

ひとつの征服欲があり同時に自分達の誇りにするのですね。これが年をだんだんとつ

しも事あらたにそうは感じないわけなんです。この頃の自動車ドライブにしろ、二時間あれば箱根の山の上へ行つてしまふ、そこでメシを喰つたりしても、それでは一向に自然に帰るという気がしないんだな。

ならないのですよ。実質的にはもつとよくなっているのがね。それより先にいい空気が自分の頬をなでてくれるという喜びの方が大きいのですよ。つまりオートバイにしろ、自動車にしろ、自転車にしろ各々全

いうことになるのかな？
山本 僕はね、あのテーマがでた時から

意味なのかな？
山本 ツーリングがあつたからペダルを踏むことを覚えたということですね。
鳥山 レースをやつて「ペダルを踏むこと」を学んだのではないことだな。

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということを知

いう人間の気持が多分に働いていると思うんですよ。

山本 それでね、年から云つても丸タイヤで素つとばす年でもないでしょうし、脚力から云つておおよそそわなんだけども、丸タイヤでつばしつて行つて舗装が

きれてしまうがなくて砂利道を走る時でも結構面白いんですね。それは風景を見ると

白味を感じるのです。鳥山さんの云つたことも真実だし……。

今井 今の三人の話を整理してみると、まず「自転車に乗ること」が面白いのです

萩原 結局、乗つて踏んでいる時がすて

ね。

山本 それでいいんですよ。

今井 それにプラス何かがあつて、そこに個人／＼の好みがでてくるということですね。

萩原 それにプラス自然があればなおさ

今井 そこでね「自転車に乗ること」が面白いということは乗っている人皆が分つ



に楽しいんですよ？

山本 それでいいんですよ。

萩原 それにプラス自然があればなおさ

今井 それにプラス何かがあつて、そこに個人／＼の好みがでてくるということですね。

山本 そうなんです。いくら「ペダルを踏むこと」が楽しくても五〇米毎に信号のあるところでは決して面白くないわけですよ。

萩原 やつぱり、その中に自然に帰ると

今井 それにプラス何かがあつて、そこに個人／＼の好みがでてくるということですね。

今井 下という？

今井 下という？

(17)

デートは 自転車で!!



サッサッとペダルを
ふんで上気したピン
クの頬は素晴らしい魅
力ですが...

サン号 エクスプレス

婦人用 ￥19,500
分割払価格



JIS 表示許可工場
No. 6100

株式会社 秀工舎サン号自転車工場
本社工場 東京都北区田端町845 TEL(03)7101-3
大阪支店 大阪市阿倍野区美草園町3の34 TEL(07)1922

同じものだと思うのです。これは初歩から

老令に至るまでのどの段階にも共通なこと
で、そういったものの上に更に自分の好み
に応じて楽しみを作りあげていくことです
ね、つまり、自分はこれが面白いんだとい
う趣味の段階での分化がここからはしまつ
ていき、ある人はお寺を見るのが好きだ、
おれは嫌だということになっていくのでは
ないでしょうか。特に学者のようににつこ

んだ研究ではないが、自分の好みに応じた
専門科ができてくるわけです(笑)。これ
は趣味であつて学問ではないのだから(笑)
専門といつたつてそんなにむずかしいも
んではないですよ、ね(笑)。

今井 それに関連してですが、先日の菅
沼さんとの対談の時の話ですが、菅沼さん
は、今の若い人は手段にしか面白味を見出
さないのではないだろうかということだつ
たのですが、これは中間の段階だという風
に解釈できるのでしょうか? 例えば「岩

ければ面白いものがありますよと云えるだ
けなんです。それ以上その人に云う権利
はありませんよ。

登り」の場合はこの先に何があるのかしら
ということだ。今の人は「岩登り」そのもの
が面白くて岩を登り、その先に何があろう
とそれ程面白味を感じていないのではない
かというような気がする、と云つておられ
るのですが……。

鳥山 分化していけばそういうことも云
えるわけだ。
萩原 僕等の考え方からすれば菅沼さん
の考え方は非常によく分るし、僕等も非常
に近いんだ。勿論まだそこまではいつて
やしないけれどね(笑)。あの汽車の中で
は風景を見て、週間誌は家へ帰つてから寝
床の中で読めばいいというのは、確かにあ
の気持ちよく分るんですよ(笑)。旅に出た
ら、行つて帰つてくるまで一杯その楽しみ
享受する気持ちがでないんだ。行つた
からには努力して楽しんでくる。僕達にし
てみればたえず道を見ているよ(笑)、あ

その道はいいかなとか(笑)、表の景色
に興味をおぼえますね。

山本 しかしどうなんでしょうかね、行
為だけを問題にすることに疑問があるの
です。先人が必要あつて憶えた技術で、
その技術そのものが面白ければ、それだけ
が好きだという人がでてきて当然な話で
はないでしょうか。別に上つてからそこに
何があるということを考えなくてでもす
よ。

鳥山 それはそうだな、山へ行けば沢も
あるしそこを歩くだけの楽しみがあり別に
頂上まであがる必要もないわけだ。沢だ
けでも充分楽しんで帰つてこられるのじゃ
ないかな。

萩原 僕等が推測するによれば、オート
バイなら例え箱根まで行つて帰つてくるに
しろその素つとばすスピード感を楽しんで
くるわけですよ。それならそれでいいし。
山本 うなづけるわけですね。

鳥山 それはペダルを踏んで楽しんでい
るのと同じことですよ。

萩原 菅沼さんの云われるような疑問は
あるけれども、それがその人の楽しみなら
例え岩登りだけでも一向にさしつかえない
ですよ。

山本 ただ他にもあるということはい
いたが……。

自転車そのものの趣味

萩原 そうそう。サイクリングが盛ん
になる前の時代に僕等が色々やつてみたんだ
が、家の近所にやはり俺は「自転車狂い」
だというのがいましたよ。彼の車を見ると
ランプを三つも四つもつけて、そうす
ね、まず自転車屋にあるあらゆる附属品が
ついていてといったものがありました。そ
の人はそれで楽しんでるわけですよ。だ
からお前は間違っているよとは云えないわ
けです。ただその人の視野がせまかつた
ということだけなんだね。もつと視野を広げ

です。それは道楽だよ。しかしボックス
カメラをいじくりまわして……

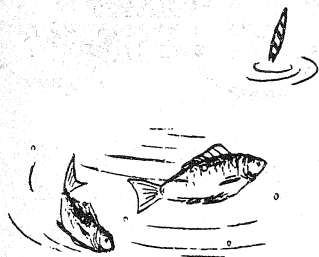
人のことをいちいち云うことまで……

フナは 足で釣れ



とかく大釣は

自転車釣師に
してやられますがね



サン号 エキスプレス

¥ 19,500
分割払価格

JIS 表示許可工場
No. 6100
秀工舎サン号自転車工場
本社工場 東京都北区田端町845 TEL(03) 7101-3
大阪支店 大阪市阿倍野区美芝園町3の34 TEL(07) 1922

沼さんとの対談の話ですが、菅沼さんは、今の若い人は手段にしか面白味を見出さないのではないだろうかということだつたのですが、これは中間の段階だという風に解釈できるのでしょうか？ 例えば「岩

の気持ちよく分るんですよ（笑）。旅に出たら、行つて帰ってくるまで一杯その楽しみ享受する気持ちがでないんだな。行つたからには努力して楽しんでくる。僕達にしてみればたえず道を見ているよ（笑）、あ

萩原 僕等が推測するによれば、オートバイなら例え箱根まで行つて帰ってくるにしろその素つとばすスピード感を楽しんでくるわけですよ。それならそれでいいし。

山本 うなづけるわけですね。ついているといったものがありました。その人はそれで楽しんでいるわけですよ。だからお前は間違っているよとは云えないわけです。ただその人の視野がせまかつたということだけなんだね。もつと視野を広げ

ければ面白いものがありますよと云えるだけなんです。それ以上その人に云う権利はありませんよ。

ク云つたんでは彼等にしてみれば心外なんだな。

今井 そうですね、その「視野」という言葉はズバリそのものなのですが、視野のせまざからいつか飽きがくるのじやないかと思うし、こういうものもありますよということをお教えあげなければいささかそこに焦りを感じるのです。

山本 老婆心だな（笑）。

鳥山 今「視野」のせまいということがでたけれどそんな人は、ツーリング、旅ということをお頭に置いて自転車に入つてきただけではないんだ。それをいきなり「視野」がせまいと云えないではないだろうか？

萩原 自転車をいじくる趣味と走る趣味とがあるわけですよ。

鳥山 走るために彼等は自転車を始めたんだ。その走り方等をトヤカ

鳥山 何だか変なものを一杯くつつけているからあれは駄目なんだと云つちや、そんな人は気の毒なんだな。

山本 それはそうでしょう、そうする事が道楽だからですね……。

鳥山 ツーリングを嫌いな連中はこれは始めから問題が違ふのですよ……。

萩原 こういうことが云えるんだ、高級カメラを五台も六台も持つている連中が別に写真をとるでもなし、ただシャッターを押してみてもその音だけを楽しんでるん

ですよ。それは道楽だよ。しかしボツグスカメラをいじくりまわしてとにかくうつつまくつている人もあるわけですよ。自転車でも安い車を買つてとにかく乗りまわしている人もいれば、高級車を二台も三台も持つて朝から晩まで磨いている人もいるわけですよ。NCTCのクラブの場合も百何十名だかいますよ、その中でいつもミーティングやクラブランに出てくる人がいますよ、又クラブが十五周年を迎えよとして

人のことをいちいち云うことはできなくなりますよ。その人が楽しんでいるんだから

（19）

いる今、僕等より古いメンバーで名前だけは聞いているがまだ一回も顔を拝んでいない人がいるんですよ、しかしそれを一度も会つていないから出てこいというわけにはいかないですよ。その人はまず会費を払うことが楽しみで（笑）、クラブの機関誌、毎月の通知をもらうことが楽しみなのです。会費さえ払つていけばクラブ員としての義務を果しているからそれ以上何を要求することもできませんよ。そうすると

鳥山 もう一寸立場を変えて云うと我々は今皆サイクルツーリストの立場からしやべつていっているわけですよ。これは前提がたよつていんだ。自転車を買つて乗る人が全部サイクルツーリストになるかといつたらそうではないですね。物指しをツーリングということだけで当てることはおかしいな。ツーリングクラブであるならそのやり方その他にカラーがあつていいんだけれど、「サイクリング」というのはツーリングだけじゃないし、もつと広い分野があるわけですよ。例えばC・T・C（英国）にしても本部の名前はツーリングクラブだが、実施面の各支部のクラブのやつていっていることはツーリングの他にタイムトライアルとかレースを大いにやつていますね。

結局、考えてみるとツーリングというの

は個人のものであるような気がするのです。ツリーングの場合は好みとかやること自身がそうですが、レースの場合にはこれは団体のものですからね。

外国の例をみてもレースの場合は確かにクラブというものが土台になっていますが、クラブが主体でツリーングの実施ということは殆どどこでもやっていないようですね。ツリーングというのはあくまでも個人的なものでクラブは社交の場としてのクラブであり、情報交換、共通の話題での楽しみの場所だと思ふのです。どこのクラブでもやるレースは邪道であるとかないとか議論していますが、サイクリングとはこれだけなんだとは絶対に云いきれるものではないと思います。

今井 そうですね、ただ時々飽きるといふ人の話を聞くのです。それは面白くないということ、自分なりの楽しみを見出せなかつたのではないかと気がするわけです。こういうのがあつて、ああいうのがあるということを知らせてあげれば、その内の中から自分に合つたものを見つけたことが出来るのではないかと思ふのです。するとでは、どういふことがあるかということになるのです。考えられる色々なことを挙げてみる必要になるわけですね。ツリーングだけでもこれは種々様々なものがあるといふ具合ですね。

鳥山 要するにここで、いろいろな楽しみ方の商品見本やカタログを作つて、その中から自分の環境や好みに応じたものをお

とりなさいということですね。

山本 カタログね……(笑)。

萩原 社交の場としてのいわゆるクラブライフというのを考えてみると会うこと語ることが楽しいということになるんだな

クラブライフ

鳥山 共通の話題だね。

山本 それがないと面白くないよ。

萩原 それがないやミーティングにいつたつてつまらんですよ。僕なんか仕事の都合で遅れてもうミーティングが終りかける頃にいくことがあるんですよ。わざ／＼タクシー代をはずすんですよ。わざ／＼です。ではそれまでしてなせいかという

とやつぱり皆の顔を見るのが楽しいんだな。何を話そうと皆にまず会うことが楽しいですね。それからサイクリストは皆割合孤独だから気の合つたもの同志が個人的に走ることも別な楽しみといえると思うのです。やはり大勢でいつたんだは駄目ですね。僕なんかいつも一人で出かけますよ。まあ、走ることは一応別にして僕なんかはクラブというものがあつた方がやはり楽しいね、クラブに入らずに結構楽しんでる人もいますよ、それはそれでいいのです。

鳥山 クラブライフというものの楽しみを考えてみると、ライフといふものだけだと、砕いた言葉で云えば人間互いのつきあいだな、それができない人はクラブに例え入つたとしてもクラブライフの楽しみは味わえないね。

萩原 しかし、それは指導の如何による

のではないだろうか？クラブの指導者はこいつたこともたえず心掛けていて、クラブの雰囲気はどうしても落し込めない人をどうやつたらうまく誘えるかということを考えてなければならぬですね。そういつた方向にもつていく努力が大切だと思ひます。あの人は駄目だからということでは離しちゃつたんではまずいと思ふな。

いつも疑問に思ふのですが、一つのプランとして例えば史蹟巡りをやるのです、史蹟巡りそのものが手段となり、リーダーがつれて歩くわけですよ。ところがそのリーダーがその史蹟について豊富な知識を持つていなければ面白くないのです。朝日ですかね、例の「文学バスハイク」というのがありますね。いつまで続くかと思つて見ているのですが、野田宇太郎が相変らずつづつて歩いてるのですね。あれはやつぱり野田宇太郎の知識が物を云つてるのであつて、「楽しみ」は色々あるのだからそれを教える人は相当な知識をもつていないとできないということですね。

知識が必要だ

萩原 だからそういう知識を持つている人になってもらうことが一番いいですよ。この間のうちの行田の古墳群を見にいつたクラブランで、向うの教育委員会の人が詳しく話してくれたのです。なるほどということとで皆非常に面白かつたんです。

山本 その、なるほどという面白さを感じとることですね。

萩原 僕がね、田無から箱根方崎の方へ走つていつた山がずっと見えてくるとたまに面白いですよ、それはその山の名前を全部知っているから、見ると自分「あそこに見える」といつて喜ぶわけですね。知識をなるべく豊富に持つこと、それが「楽しみ」をより広くする一つの方法ではないかと思ふのです。僕がよくいうんだが、人からそれらを受けることはいいが、

す。ツーリングだけでもこれに類するものがあるといつた具合ですね。

鳥山 要するにここで、いろいろな楽しみ方の商品見本やカタログを作つて、その中から自分の環境や好みに応じたものをお

わと、楽しみたい。あいだな、それができない人はクラブに例え入つたとしてもクラブライフの楽しみは味わえないね。

うことを知らなければ恐らく走つてみようなんていう気持ちにならないと思うのです。つまり「楽しみ」をふやすということとは非常に知識が必要になつてくるわけですよ。

す。知識をなるべく豊富に持つこと、それが「楽しみ」をより広くする一つの方法ではないかと思うのです。僕がよくいうんだが、人からそれらを受けることはいいが、

自分でサイクリングに出かける時そこに何かテーマをもつ方がいいとね。例えば多摩丘陵のことだつたら俺に聞けという位の人が百何十人かのクラブ員の中に一人位いてもいいと思うのです(笑)。あそこのことだつたら曲り角ひとつでも、一本一本の木までまたお寺の各々について知つていないことは、これは年のせいかも知れないが、楽しいことだと思うのです。

山本 そりや年のせいですね(笑)。

萩原 相手は別に何でもいいのです、そのように努力することが一人の人間を円熟させ、その人なりの「楽しみ」をきづきあげることに思ひます。何も場合によつてはサイクリングだけに限ることではないですね。

山本 ただサイクリングでいつた方が拾い物が多いですね。思わぬものがあつたりしますね。

鳥山 ただサイクリングでなければ味わえない「楽しさ」というのは、自分の力でそこまでかけていつて自分で見るといふ、例えば単にバスに乗つかつてつれていつてもらうのと違つたものがあると思うのです。クラブでもはじめの中は何も分らないから仕方がないが、本当はつれていつてもらうんでは面白くないんだな。何でも自分でやるというところがサイクリングのいいところだと思ふのです。自分でプランをたて、行つて見たいものをみて、帰つてこれらというのが良さだと思ふ。あくまでも自分の努力次第ですね、走ることにしろ、食

へることにしろ、見ることにしろ、話すことにしろ、皆そうですよ。

山本 そう考えていくとまずサイクリストは何よりも先に地図に親しまなければ何と得られないんじゃないでしょうかね。

鳥山 方向が分らなければ困るね。

萩原 地図が読めなければしょうがないね。

地図のこと

山本 僕なんか、かつては二十万分の一の地図を見て、これを隅から隅まで赤くしてやろうと思つたものです。まず方角、そして自分の車が走るに適しているかどうかを考へて、大きな道から誰でも先に走らうですね。又赤線で埋めていくためには自分の今いる位置を知らなければならぬ、そうするとあらゆる記号を憶へなければならぬ。そこから走ることに「楽しみ」がスタートするのであつて、はじめての人には地図をまずすすめたいですね。

鳥山 地図をもつことがいいか悪いかというより走つてつまらぬ。地図が読めなければ今どこにいるのかさへ見当もつかないし全く面白くないですよ。

山本 地図で思ひ出すことがあるんですが、それはクラブランで池袋の三和銀行前に集合した時でした。リーダーが時間になつてもさつぱりこないのです。案内状をもつていふのですが、池袋から王子、西新井、鳩ヶ谷は、地図の中のどの道をいくのかわからなかつたので例のおソバ屋さ

んの天野さんに聞いたのです、そうしたら天野さんが一喝して「案内状があるんだから地図を読み給へ」というわけなんです(笑)、あれには全く恐れ入つちやつて、「地図を読み給へ、地図が読めなければでくるな」というわけで「もしわからなければ、いい先輩がたぐさんいるのだから聞きなさい」、全くこれには恐れ入つちやつたな(笑)。

鳥山 逆に考へてくるといふゆるコースガイド通りに走つちや面白くないんだな。自分で地図を開けてみてプランをたてることとが楽しいんですよ。皆の知らないところを氣ままに走つてみてはじめて面白味がわかるんじゃないでしょうか。

コースガイドのあり方

今井 ところがね、コースガイドの多くの質問はあそこへいくのはどこをどうやつていつたらよいのかということなんです。コースガイド通り走るのはつまらないというが、これを手引として考へてくれれば良いと思ふのです。

山本 例えば僕が走つて良かったという半原への道にしても僕が良いといつたから他の人が必ずしもそうであるとは断言できないし又保障できないですね、それは道に對する僕の好みとその人の好みの違いからくるものでしょうね。

萩原 そういふことを承知していて發表するというのは無責任だ(爆笑)。

今井 僕等が走りだした頃にはどこをどうやつていつたらなどは余り考へなかつ

た、その頃と今とは違ふのかな、この考え方が今全部の人に通じるとどうかは疑問に思つています。まずこういうききなさいといつて、もう一段階前があるように思ふのですが……。

山本 それはね、僕等の小学校の頃はアンチヨコを持つてやる奴は少なかつたんですよ。ところが今の子供はそのアンチヨコを非常に整備しているのですよ。そのような教育を受けた人達がでくると、僕等なんか比べて……。

鳥山 まず立札、ガイド通りいく方が馴れていくというわけだ。

山本 僕の友達に学校の先生が多いのですが聞いてみると、実にアンチヨコはすごいんですね。例えば五〇円でプリントに刷つたものでもたちまち売れてしまうそうです。

今井 するとこれはジェネレーション(世代)の違いということになるかな?僕等にはアンチヨコを使うのはいさぎよしとしない氣風があつたからな(笑)。

鳥山 大体アンチヨコという奴は、出来ない連中が使つたものだからね(笑)。

萩原 そう、そう(笑)。

鳥山 ああいうものを持つていると恥だとさと思つていたんだからな(笑)。

まあ話がとぶが、個人として又はクラブ員としてクラブライフをおくるためのいろいろのカテゴリーがあるということだな。その中から自由に自分のものと思ふものを選びなさいという以外にないようだな。

ただつまらないだけでやめてしまうのが多

萩原 それは考えようとしても、考える方法を知らないからではないだろうか？サイクリングの場合も他の場合でも考える人間程進歩し向上していくと思うのです。

今井 自分で「楽しみ」を考えたすという

ことに相当大きな問題があるようです。ね。

鳥山 そりや、お互いに人間だから分らないことがあるからおそろわなければなら

ないが、その教わつたことプラス自分で考えることがなくてはと思うんだがな。

話が一寸もどるが、なぜクラブへ入つた

らよいのかとか、クラブライフの楽しみが
どののといったことを考えてみると、普通

のグループというのは職場とかいったものに限定されるのだがサイクリングクラブというのは非常にバラエティーに富んでいるわけですよ、まあ職域は別ですよ。

うちのクラブをみても、どこへいったとか
自転車の話はするにはするが全体の話の量
からいくとそういつたものが非常に少ない
んですよ。話題の範囲が広いんですね、た

またまたサイクリングというもので皆がつながっているのですが内容そのものはバラエティーに富んだ連中が集まって話をするという、ひとつの社交の場なのだ。自転車

のことだけなら限られてしまいが、それとは違った分野例えば写真、着るものといった具合に話題を広くもつことですね。それがクラブに入っていることの楽しみであり

分て設計したり、考えたりにして作つた車に
実際に乗つて走り廻れるという、他の乗物
では味わえない作る喜びがある。オニユ

萩原　むずかしいのは視野を広くするた
めに非常に大きな知識を必要とすること

ね。それこそサイクルがとんでもないこの話まで書かねばならなくなってくるんだよ。

山本 お酒の話もだした方がいいね(笑)

鳥山 もつともつと郷土的な、民俗、俗文化といったものが必要になってきたわけだ。

恐らくこれらの色々の問題で編集も悩む
思うんだ。あつちこつちつきあたると思
んだ。

山本「考えろ」か（一同、笑）。

萩原 最近はクラブで余り自転車話を
なくなつたですよ。前はとにかく欲しい

思うものがなかったからよると必ずそう
 ったことを話し合ってお互いにそのこと
 よつて楽しかったものですが、今では、
 りなりにも完全だが一応満足できる程度

ものが多くあり、なかでも買おうと思える高級車でも金を出せば若い人でもすぐに買えるわけですよ。

鳥山 考えてみると、それは決して最高

車じゃないよ。
萩原 だからさ、我々若い頃に比べれば
応満足できる、昔乗っていた車とは比べ
のにならない数等いい車が金だせば買え

時代になつたわけですよ。だから余り自動車についてしゃべらなくなつたわけです。菅沼さんも云つていましたが、今のスキーヤーはスキーのことについて余りしや

「さあ……（笑）、これが自転車の
何か共通なものがある

まあ大体の連中は、考えることが面倒で

山本　じゃんじゃんいい車が買えるような時代がきたら恐らく車のことは忘れるね。

鳥山 逆に云えばいいものを知らないということができるのではないだろうか。

萩原　だから僕は若い人にも云うの
だが、外国の部品をみて日本のものど
ころがいいか、悪いかを考えてごらんなさいと
ね。

今井まあ要するに「考える」ということをまず始めてもらうためにその動機になるアンチヨコだな、ツーリングのアンチヨコ、レース関係のアンチヨコといった具合にこれ又色々種類がでてくるでしょうな。

萩原 アンチヨコすなわち、なるほどこういうことをやつたら面白そうだなというのを見せる必要はあるね。

鳥山　いくら与えてもそのアンチヨコを
基にして楽しみを作り出そうとしなければ
駄目だからな。

山本　その実行するしないは別として善意に解釈して一応アンチヨコを見てでもやろうとする意志はやつぱり尊重しなければいけないですね(笑)。

今井 結局、カタログに入るのだが、一体ざつとあげてみようかな？

鳥山 大ざっぱに分ければ、走る楽しみと走らないで味わえる楽しみだろうな。走る楽しみでは、スピードを主にするか旅行を主にするかですね、それにもう一つ、自

萩原 視野がせまいからだよ。
山本 そういつたことのためにもカタロ
グ集をこれから出そうではないか。
今井 そういうことになるんだがな？

鳥山　要するに本人が、自分のやろうとすることに對してどの位熱情を持つてゐるかということだな。

萩原 熱情がなくなるとそれがたちまち
苦しみになるのだからな。

鳥山 もつとつこんで云えば、武蔵野はサイクリングよりも草鞋をはいて歩かなければ分らないんだということになればそれはそれでよいと思うな。

山本 例え芭蕉の句碑があつてもその時の芭蕉の状態を知らなければ単なる石のカケラにすぎないですからね。

鳥山 自分の興味をもつた対象に対して
 つつこんでいくためにサイクリングを結び
 つけるという以外に、違うところにいくら
 熱情を傾けても一向に面白味が湧いてこ
 ないのは当然ですよ。やっぱり自分の興味

持つ対象というものをよく見きわめることだ。サイクリングと自分のはじめの結びつきを考えてみて、どうしてなんだろうと

いうことからでは自分はいからかうということをやってみようということを考えてまず興味の対象を見つけることですね。

山本 こういう楽しみもあると思うんで

すがね、これらの苦勞なしにですよ、例えば彼女と二人で行くとするでしょう、すると電車で行く場合、電車の中ではこれは他

人だね。自転車で出かけていつたら最初から二人だからさぞ楽しいと思うんだがどうでしょうか（笑）。

一同……………（大笑）。

100

萩原 さあ……（笑）、これが自転車の場合でも楽しくないだろうね。東京の町を
 するまでは電車と同じだな。

山本 でてからは？

萩原 電車で降りたと同じ形になるよ。
東京の町の中では何としても並んで走るわけにはいかないんだよ。彼女と一緒にんだから楽しいはずなんだが、電車の中と同じで余りしやべれないんだよ。しかし電車の中にいようと、どこにしようと彼女と一緒にいるそのことが楽しいという点は全く変わらないんだよ（爆笑）。

山本 僕は、その彼女と一緒にの楽しさということがサイクリングの楽しみの一つだと思ふのですよ。

今井 どうもね、なんだかとりとめもない座談会になったが始めに

云つたように結論はなくても、これを読

E E

用車 用車
製作 製作
新大市 新大市
112-0756 (106)252・756

考えて自分
 の楽しみをみ
 つけてもらえ
 ます。

自入才ク
 昭英
 埼玉県川口
 TEL 048-461-1111

株式会社
 昭英

れは目的は違
ずると思いま
すので……こ

の
辺
で

プリ

3674号
3676号

